

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2014-134018

(P2014-134018A)

(43) 公開日 平成26年7月24日(2014.7.24)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
E O 1 C 11/22 (2006.01)	E O 1 C 11/22 B	2 D 0 5 1
E O 3 F 5/046 (2006.01)	E O 1 C 11/22 A	2 D 0 6 3
	E O 3 F 5/046	

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号	特願2013-2384 (P2013-2384)	(71) 出願人	504127887
(22) 出願日	平成25年1月10日 (2013.1.10)		エムシー産業株式会社
			佐賀県佐賀市八幡小路1番10号
		(74) 代理人	100081592
			弁理士 平田 義則
		(72) 発明者	西 博
			佐賀県鹿島市大字納富分1415-1
		Fターム(参考)	2D051 AA03 AC05 AF03 DA07 DA18
			2D063 CA21

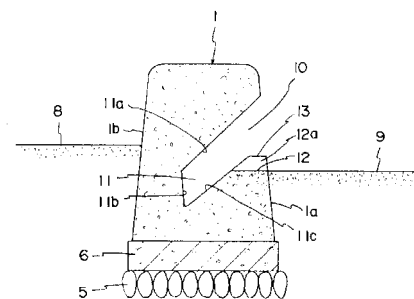
(54) 【発明の名称】 歩車道境界用縁石ブロック

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】雨水通水溝への雨水の流入を確保しながら、車道表面の土砂やゴミ等が流入しにくい構造として雨水通水溝が土砂やゴミ等で詰るのを解消させ、又、人の靴や自転車の車輪が開口部から雨水通水溝内に滑り込むといった事故を回避できる歩車道境界用縁石ブロックの提供。

【解決手段】正面1 aに形成された開口部1 0からブロック内部に向けて下り傾斜して雨水通水溝1 1が形成されることで断面略C字形状に形成され、開口部の底縁1 2に数個の突出部1 3が流入用スリット口1 2 aを介して上向きに形成され、施工に際し開口部の底縁1 2が車道の表面に一致するように形成されて、突出部が車道の表面から突出するように形成されている。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

車道（９）と歩道（８）の境界に敷設されるコンクリート製の歩車道境界用縁石ブロック（１）であって、

車道（９）に面して設置される正面（１ a）にブロック全長に亘って開口部（１ ０）が形成され、この開口部（１ ０）からブロック内部に向けて下り傾斜して雨水通水溝（１ １）が形成されることで断面略 C 字形状に形成され、

前記開口部（１ ０）の底縁（１ ２）に数個の突出部（１ ３）が流入用スリット口（１ ２ a）を介して上向きに突出して形成され、

かつ流入用スリット口（１ ２ a）が形成された前記底縁（１ ２）は施工に際し車道（９）の表面に一致するように形成されて、前記突出部（１ ３）が車道（９）の表面から上向きに突出するように形成されていることを特徴とする歩車道境界用縁石ブロック。

10

【請求項 2】

請求項 1 記載の歩車道境界用縁石ブロックにおいて、前記数個の突出部（１ ３）がブロックと一体成型されたコンクリート製の突出部である歩車道境界用縁石ブロック。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は車道と歩道の境界に敷設されるコンクリート製の歩車道境界用縁石ブロックに関する。

20

【背景技術】

【0002】

従来、歩車道境界用縁石ブロックにおいて、車道に面して設置される面にブロック全長に亘って開口部が形成され、この開口部からブロック内部に向けて下り傾斜して雨水通水溝が形成されることで断面略 C 字形状に形成されたものが知られている（特許文献 1 参照）。

【0003】

この従来の歩車道境界用縁石ブロックは、開口部の底縁を車道の表面に一致させるように敷設させ、これにより車道の表面から雨水を開口部からブロック内部の雨水通水溝に流入させ、この雨水通水溝を通して集水桝等に排水させるようにしたものである。

30

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献 1】特開平 9－1 9 5 2 1 4 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

従来の歩車道境界用縁石ブロックは、開口部と雨水排水溝によってブロック内部に通水機能を持たせたものであるが、開口部の底縁がその全長に亘って車道の表面に一致するように形成されている。

40

【0006】

このように形成すると、車道表面からの雨水を開口部の全長に亘って広範囲に集水することができものの、同時に車道表面の土砂やゴミ等が開口部から雨水通水溝に流入しやすくなり、雨水通水溝が土砂やゴミ等で詰まってしまい、その除去作業に多くの手間を要するなど維持管理性の面で改良の余地があった。

【0007】

又、車道の端を歩車道境界用縁石ブロックに沿って人が歩いたり走ったり自転車が走行したりする際に、靴や車輪が開口部から雨水通水溝内に滑り込み易くなり、事故につながってしまうという問題もあった。

50

【0008】

本発明は、開口部から雨水通水溝への雨水の流入を確保しながら、車道表面の土砂やゴミ等が流入しにくい構造とすることで、雨水通水溝が土砂やゴミ等で詰るといった不具合を解消させ、又、人の靴や自転車の車輪が開口部から雨水通水溝内に滑り込むといった事故を回避できるようにした歩車道境界用縁石ブロックを提供することを課題としている。

【課題を解決するための手段】

【0009】

上記の課題を解決するために、本発明の請求項1にかかる歩車道境界用縁石ブロックは、車道(9)と歩道(8)の境界に敷設されるコンクリート製の歩車道境界用縁石ブロック(1)であって、

10

車道(9)に面して設置される正面(1a)にブロック全長に亘って開口部(10)が形成され、この開口部(10)からブロック内部に向けて下り傾斜して雨水通水溝(11)が形成されることで断面略C字形状に形成され、

前記開口部(10)の底縁(12)に数個の突出部(13)が流入用スリット口(12a)を介して上向きに突出して形成され、

かつ流入用スリット口(12a)が形成された前記底縁(12)は施工に際し車道(9)の表面に一致するように形成されて、前記突出部(13)が車道(9)の表面から上向きに突出するように形成されている構成とした。

【0010】

又、本発明の請求項2にかかる歩車道境界用縁石ブロックは、請求項1記載の歩車道境界用縁石ブロックにおいて、前記数個の突出部(13)がブロックと一体成型されたコンクリート製の突出部である構成とした。

20

【発明の効果】

【0011】

本発明(請求項1)の歩車道境界用縁石ブロックは、開口部の底縁に流入用スリット口を介して数個の突出部を形成させ、この突出部を車道の表面から上向きに突出させるように形成させた構成に特徴がある。

【0012】

このように、突出部を形成させたことにより、この突出部が壁となって車道表面の土砂やゴミ等が開口部から流入するのを抑制することができ、雨水通水溝が土砂やゴミ等で詰るといった不具合を解消できる。

30

【0013】

又、流入用スリット口が形成された開口部の底縁を車道の表面に一致させるため、この流入用スリット口を通して雨水の流入を確保することができ、本来の機能である歩車道境界用縁石ブロックの内部を利用した通水機能を保持できる。

【0014】

又、開口部に突出部を形成させたので、この突出部がガート壁になり、歩車道境界用縁石ブロックに沿って人が歩いたり走ったり自転車が走行したりする際に、靴や車輪が開口部から雨水通水溝内に滑り込むといった事故を回避できる。

【図面の簡単な説明】

40

【0015】

【図1】本発明の実施例1にかかる歩車道境界用縁石ブロックの施工状態を示す断面図。

【図2】実施例1の歩車道境界用縁石ブロックを示す斜視図。

【図3】実施例2の歩車道境界用縁石ブロックを示す断面図。

【図4】実施例3の歩車道境界用縁石ブロックの施工状態を示す断面図。

【発明を実施するための形態】

【実施例1】

【0016】

実施例1の歩車道境界用縁石ブロックは、図1、図2に示すように、基本的断面形状が略台形で、道路延長方向を長手方向としたコンクリート製ブロックで形成され、その正面1

50

aが車道9に面し、背面1bが歩道8に面するように敷設される。
尚、図1において、5は基礎栗石、6はベースコンクリートである。

【0017】

この歩車道境界用縁石ブロック1には、車道9に面して設置される正面1aにブロック全長に亘って開口部10が形成され、この開口部10からブロック内部に向けて下り傾斜して上側傾斜面11aと、奥側面11bと、下側傾斜面11cとで囲まれる雨水通水溝11が形成されることで断面略C字形状に形成されている。

この雨水通水溝11は、溝幅が溝底に向けて次第に狭くなった断面V字状溝に形成され、その溝底が開口部10の底縁12よりも低い位置に形成され、又、開口部10の底縁12はブロックの正面1aから雨水通水溝11の下側傾斜面11cに至る平面状に形成されている。

10

【0018】

そして、前記開口部10の底縁12に、数個（実施例では8個）の突出部13が流入用スリット口12aを介して上向きに突出して形成されている。

この突出部13はブロックと一体成型されたコンクリート製の突出部であり、このコンクリート一体成型によって容易かつ強固に突出部13を形成できる。

【0019】

前記流入用スリット口12aは、その底面が開口部10の底縁12で形成され、この底縁12が施工に際し車道9の表面に一致するように形成されている。

これにより、敷設状態において、前記突出部13を車道9の表面から上向きに突出させるものである。

20

【0020】

このように、流入用スリット口12aを介して開口部10に突出部13を形成させたので、流入用スリット口12aによって雨水の流入を確保しながら、突出部13を壁として機能させて開口部10からの土砂やゴミ等の流入を阻止させることができる。

【0021】

この場合、流入用スリット口12aにより大きいサイズの土砂やゴミ等は突出部13によって流入を阻止させることができるが、微粒子などのサイズの土砂等は流入用スリット口12aを通して雨水通水溝11内に流入する。

【0022】

このようにして微粒子などの小さいサイズの土砂等が雨水通水溝11内に流入した場合でも、この雨水通水溝11は溝幅が溝底に向けて次第に狭くなった断面V字状溝に形成されているため溝底側ほど流速が速く、この水流に乗せて微粒子などの小さいサイズの土砂等を押流し雨水通水溝11内に溜まらないようにしている。

30

【0023】

又、開口部10に突出部13を形成させたので、突出部13がガート壁として機能し、人の靴や自転車の車輪が開口部10から雨水通水溝11内に滑り込むといった事故を回避できる。

【実施例2】

【0024】

実施例2の歩車道境界用縁石ブロック1は、図3に示すように、突出部13の構造において実施例1と異なる。その他の構成は実施例1と同様である。

40

【0025】

この実施例2の突出部13は、雨水通水溝11の下側傾斜面11c沿って金属板等の板部材13aをアンカー13bによってブロックに取り付けることで、開口部10の底縁12に突出部13を、流入用スリット口12aを介して上向きに突出して形成させたものである。

【0026】

この実施例2は、板部材13aを雨水通水溝11の下側傾斜面11cに沿って取り付けた例であるが、例えば、ブロックの正面1aに沿って板部材等を取り付けてもよいし、開口

50

部 10 の上縁 12 に板部材や突起部材等を取り付けるようにしてもよい。

【実施例 3】

【0027】

実施例 3 の歩車道境界用縁石ブロック 1 は、図 4 に示すように、不透水性層 9b の上に透水性表層 9a を形成させた排水性舗装の車道 9 に適用させるためのものである。

【0028】

この実施例 3 では、ブロックの正面下端部分に切欠き部 7 を形成し、この切欠き部 7 の正面及び底面を囲む区画部材 7a を切欠き部 7 の天井面にスペーサ 5 を介して取り付けしている。

【0029】

施工に際し、前記スペーサ 5 によって形成される空隙 S の下端に不透水性層 9b の上面を一致させ、かつこの上に透水水性表層 9a を表面が開口部 10 の上縁 12 に一致するように敷設させる。

【0030】

これにより、透水水性表層 9a の内部に浸透した雨水を不透水性層 9b で受け止め、この雨水が車道 9 の端側に流れて歩車道境界用縁石ブロック 1 に至ると、前記空隙 S から切欠き部 7 の内部に流入させ、この切欠き部 7 を通水路として集水桝等に排水させることができる。

【0031】

尚、透水水性表層 9a の表面を流れる雨水を、開口部 10 のスリット口 12 を介して雨水通水溝 11 に流入させる点は前記実施例 1 と同様である。

【符号の説明】

【0032】

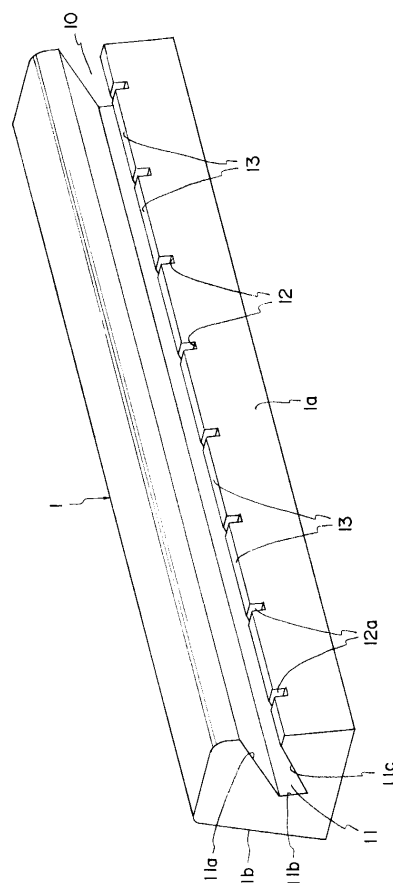
- 1 歩車道境界用縁石ブロック
- 1a 正面
- 10 開口部
- 11 雨水通水溝
- 12 底縁
- 12a 流入用スリット口
- 13 突出部
- 9 車道
- 8 歩道

10

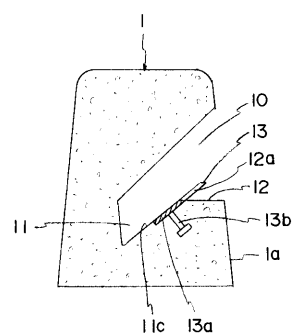
20

30

【図 2】



【 図 3 】



【 図 4 】

